

令和7年度
中南の

社会教育

子ども・担当者のために
中南教育事務所
学校・地域の応援隊

スキルアップ

活力ある持続可能な社会教育を目指して

～豊かで住みやすい地域社会の創造～

令和7年度 青森県社会教育研究大会

9月12日(金)青森県総合社会教育センターを会場に令和7年度青森県社会教育研究大会が開催されました。開会行事では、永年社会教育委員として御活躍されてきた方々の表彰が行われました。中南管内からは鳴海勝文さん(黒石市)、齋藤有さん(黒石市)佐々木修聖さん(大鰐町)が表彰されました。続いては大正大学地域創生学部の教授である牧野篤氏による「『よきこと』をつなぐ、『よき存在』になる—社会の土壤を耕す拠点としての公民館を考えるー」と題した講演が行われました。昼のポスターセッションでは、中南管内からは弘前学院大学文学部井上裕太研究室が「弘前リボーン・アートボール・プロジェクト」を、大鰐町教育委員会が「ふるさと子ども教室について」を発表し、参加者は熱心に聞き入っていました。午後は4つの分科会にて、それぞれのテーマに沿って地域課題解決に向か、熱心に話し合いました。各分科会のテーマは以下のとおりです。



Index

■ スキルアップ	
①青森県社会教育研究大会 (県総合社会教育センター)	1
②社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 (西目屋村中央公民館)	2
③放課後児童対策に係る支援員等研修会(後期) (青森県武道館)	2
■ ネットワーク	
④二人展(平川市)	3
⑤おはなし会(黒石市)	3
⑥企画展「やーやー弘前ねぶたの今と昔」(弘前市)	3
⑦弘前市子どもの祭典(弘前市)	4
⑧ふじさき秋まつり(藤崎町)	4
⑨西目屋村文化祭 (西目屋村)	4

＜第1分科会＞ 学校と地域の連携・協働について
「学校と地域の在り方～東青地域の実践例～」

＜第2分科会＞ 家庭教育について
「親の学びが子どもを育てる
～変化する家庭の役割と向き合う」

＜第3分科会＞ 社会教育委員について 「私と社会教育」
＜第4分科会＞ 公民館について 「令和型の公民館のあり方」

＜第3分科会＞ 社会教育委員について

第3分科会では、藤崎町社会教育委員の岩谷真佐子氏が「私と社会教育」のテーマで発表しました。社会教育委員として活動してきた経緯や、現在取り組んでいる藤崎地域ラボの「ナゾツグ」や「ふじさんぽの会」の活動を紹介していました。そして、社会教育委員として、住民が「地域づくりの自覚」をもつことができるよう肩肘を張らず、継続して行ければと語っていました。

発表の後は、参考集者でグループワークを行いました。現在取り組んでいる事業、特色ある事業をお互いに紹介し合うとともに、悩みを共有することができ、有意義な時間となりました。



村民の健康を目指して！！

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業

9月4日（木）西目屋村中央公民館にて第1回実行委員会が行われました。案件は会の名称、会則、委員名簿、活動内容についてでした。実行委員の総意により、名称は「村民の健康な未来を考える会」とし、西目屋小学校鳴海昭博校長を会長とする12名で実行委員が組織され、会則も了承されました。活動計画については大筋で合意したものの、事務局を中心に情報共有することで、さらによりよい事業となるよう取り組んでいきます。

具体的な事業としては、12月21日（日）に、西目屋小学校を会場として「スポーツ子どもの体づくり」をテーマとして、トレーニング方法、食事の改善に関する講義・実技を伴うイベントを開催する予定です。



今日の『楽しい』が子どもの未来につながると信じて

放課後児童対策に係る支援員等研修会（後期）

岩手県立児童館いわて子どもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀 氏



9月22日（月）県武道館会議室を会場に放課後児童対策に係る支援員等研修会（後期）が開催されました。「今日の『楽しい』が子どもの未来につながると信じて」と題して、講義では、子どもにとって「遊び」とはどのようなものなのか、「遊びの定義」を基に分かりやすく教えていただき、演習では、道具を使わない簡単な遊びや身近な素材を使った遊び（じゃんけん遊び、折り紙遊び、ペットボトルキャップ遊び等）を教えていただきました。

一方的に講義をするのではなく、参加者の思いに寄り添い、会話をしながら説明をするため、うなずきながら話を聴いている姿が多く見られました。

実施後のアンケートの記述欄には、「遊びの大切さを改めて実感しました。大人が先回りしない。子どもが気づける余白をもてるように意識していきたいと思います。」「子どもに対して言ってしまう言葉遣い、見直してみようと思いました。また、これからの人たちとの接し方、楽しめるような場を展開できるような気がします。」等の感想があったように、充実した研修会にすることができました。



事業訪問

中南教育事務所では各市町村の事業を取り材し、情報の共有及びネットワークづくりを支援しています。

ネットワーク

今井理桂・竹村松博「二人展」(平川市) 8月6日~20日



市制施行20周年を記念事業として、ともに平川市出身である二人の作品展示が、平川市文化センター2F 中研修室及びギャラリーを会場に行われました。お二方とも工房は黒石市豊岡です。竹村氏の彫刻は桂の木を材料としており、近隣から良質の木材を手に入れ作品づくりに没頭していることです。今井氏の陶芸は、釉薬を使っておらず、作品の出来や色味は窯を開けてみないと分からないとのことです。両名とも、この伝統を若い世代に伝えていきたいと語っていました。

ここが魅力

平川市文化センターは総合施設であり、1階には図書館があります。図書館等を利用した小学生がたくさん展示会場を訪れているとのことでした。小学生の質問の鋭さに作者も驚きを隠せない様子でした。総合施設で展示会を行う好例でした。

黒石市立図書館おはなし会(黒石市) 8月24日



読み聞かせや紙芝居等を通して心ふれあうひとときをつくるとともに、市立図書館の利用促進を図ることを目的として黒石市立図書館で行われました。当日の参加者は、こども7名（幼児～小学校低学年）引率保護者6名でした。運営は図書館スタッフ2名、黒石高校ボランティアスタッフ3名が読み聞かせを行いました。大判の絵本を使い、こどもたちに語りかけるように読み聞かせ、口調は柔らかく、なめらかでありとても上手でした。読み聞かせの後は、傘袋を利用したおもちゃづくりを行い、高校生が一人一人のこどもに材料をやさしく手渡ししている姿が印象的でした。

ここが魅力

高校生は「このボランティアのために、こどもに伝わるような読み方をたくさん練習しました。実際読んでみて、子どもの喜ぶ顔が見られてとてもうれしいです。」とコメントしており、高校生のボランティアを活用した好事例でした。

企画展「ヤーヤドー！弘前ねぶたの今と昔」(弘前市) 8月1日～9月28日



弘前市博物館では、江戸時代から現代までのねぶた絵や下絵、関連資料などを多数展示していました。特に下絵の構図の作り方は、興味を引くものでした。最古のねぶた絵を描いた弘前藩士小島左近さんから始まる、絵師の歴史が綴られていきました。現在のねぶたの在り方を確立させた竹森節堂と石澤龍嶽、次代の長谷川達温、

阿部義夫、石澤の弟子である三龍（高橋翔龍、聖龍院龍仙、三浦香龍）等の作品が会場いっぱいに展示され迫力あるものでした。

ここが魅力

博物館では小中学生に「気軽に来てもらえる博物館」を目指して、学校指導課とタイアップして「教員のための博物館の日」に取り組み意見交換を重ねています。また、令和6年度から弘前二中生徒の職場体験を受け入れるなど学校との結びつきを強めています。

第62回「弘前市子どもの祭典」（弘前市）11月3日



毎年文化の日に弘前市文化センターを会場として行われ、今回で62回を迎えます。今年は、中高合わせて11名の実行委員が企画・運営を行いました。開会式では実行委員長が「Make You Happy のテーマのもと、帰った時に今日が Happy だと思えてもらったらうれしいです。」と述べていました。その後、実行委員の進行で作品展の表彰が行われました。ステージ発表は致遠児童センターのダンス、豊田児童センターの一輪車と続きました。また、体験コーナーはスタンプラリー形式で9つのブースがあり、最後は抽選会で大盛り上がりでした。

ここが魅力

少子化の昨今、中高校生と小学生等とのつながりを深めていました。司会・進行の巧みさで、参加した小学生等の心をがっちりつかんでいました。実行委員の一人は「将来、子どもに関わる仕事がしたくて、実行委員に参加しました。」と語っており、実行委員、参加者双方にとって満足度が高い事業となりました。

第13回ふじさき秋まつり（藤崎町）11月15日



町をあげて取り組んでいるイベントであり、ジャンボアップルパイ無料配布等の企画により、晴天の下、会場は溢れんばかりの来場者で賑わっていました。文化センター、スポーツプラザともに2日にわたって多様な団体の芸能発表が行われました。展示コーナーも充実しており高橋まゆみさん的人形写真の表情の豊かさに来場者は引き込まれていました。特に、リサイクルブックコーナーが充実しており、来場者の目を引いていました。また、来年度の国スポ公開競技であるパワーリフティングの体験も行われ町民の国スポへの関心を高めしていました。

ここが魅力

物品販売では、藤崎小学校児童がリンゴジュースを販売していました。訪問時にはブースを巡回していた先川栄蔵さんがインタビューを行っており、会場へのメッセージを求められ「リンゴジュース買ってけろじゃ！！」の一言に会場は大盛り上がりでした。

第52回西目屋村文化祭（西目屋村）11月16日



第52回西目屋村村民文化祭が西目屋村中央公民館を会場に行われました。今年から西目屋小学校の発表が復活し、保育園から大人まで多様な年代の発表が行われました。作品展示の他に多数のブースが参加しており、北東北検索犬によるセラピー犬ふれあい体験や県力ナー協会によるエルゴ体験などがありました。特に社会福祉協議会による福祉バザーが人気を集めました。午後は陸上自衛隊第9音楽隊の演奏、ライスボールのミニライブが行われました。自衛隊とライスボールのコラボ演奏に満員の会場は大いに盛り上がっていました。最後はライスボールによる抽選会を行い終了しました。

ここが魅力

ステージでは、あきた耳鼻咽喉科クリニックの秋田院長による「ヘッドホン難聴と加齢性難聴」の講演、ブースでは補聴器PRコーナー、ピロリ菌PRコーナー、歯科検診コーナー、健康チェックコーナーなど「健康増進ブース」の出展が充実しており来場者の健康に対する意識を高めしていました。